

令和6年6月12日

令和5年度  
学校法人 明星学園 認定こども園 清泉幼稚園  
自己評価報告書

《1.本園の教育目標》

【幼児の創造性を育て、健康で心豊かな人間形成の教育】

- ◎よく遊び、よく学ぶ
- ◎個性と自主性を育てる
- ◎創造の芽生えと豊かな情操
- ◎友達関係の深まりから社会性を育てる

《2.令和5年度の重点的に取り組む目標・計画》

幼稚園教育要項の改訂を踏まえ、教職員一同、子ども達ひとりひとりの「個性」を伸ばし、成長しようとする心のサポートを大切にし、各学年の年齢や能力に応じたさまざまな活動の機会を与え、仲間との触れ合いや環境を活かした自然との触れ合いの中で健全な成長・発達を促せるようにする。

### 《3.評価項目の達成及び取組状況》

【評価結果の表示方法】

A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが、成果が十分ではない  
D：取り組みが不十分である

評価項目	評価	取組状況について
幼児教育の理念や子どもの実態に適した教育課程に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	コロナ禍も5類相当へ移行・緩和されたことをうけ、クラス単位の活動から異年齢の活動を取り入れることができたり、行事等の活動制限も無くなり、クッキング等の新しい取り組みも行うことが出来た。
幼稚園教育要項に基づいた指導方法及び幼児への対応	B	保育者同士の情報共有をするように心掛け、子どもたちの様子や成長等を確認するようにはしていたが、引き継ぎの伝達が上手くいかなかったり、職員間で同じ対応を取るなど、共有等の今後の課題がでた。(ルールや遊び方の確認等)
幼稚園の流れおよび教育週数	A	学年ごとに年間カリキュラムをたてそれに沿って活動が出来ている。コロナ禍も落ち着いたことで休園措置も無くなり良くなった。年長児はインフルエンザ流行のため、運動会を延期して対応を行った。
行事計画の実施・実態について	B	保護者アンケートを実施し、意見を取り入れながら、行事の見直しを行った。コロナ前と同様の行事活動を実施することが出来たので、子どもたちや保護者も楽しむ姿が見られた。今年度は猛暑だったため清泉まつり(夏祭り)では、次年度は暑さ対策、時期含め検討が必要。
運営・学級経営・組織・体制について	B	今年度も前年度と同様、職員体制の変更を実施しました。今後、職員配置も固定できるように、子どもたちの様子を共有して、保育に入れるように取り組みを行っていく。
園内研修・園外研修	B	オンライン等の研修が増え、中堅研修からブロック大会、リカレント研修、キャリアアップ研修等多くの研修に参加することが出来た。園内研修では、職員間の時間調整が難しく職員一斉の研修開催については要検討。
子育て支援・地域との繋がり・情報発信	B	ホームページや園だより、ブログ、クラスだより等で幼稚園の様子を発信。今年は行事で高校生のボランティアと触れ合ったり、祖父母の集いの行事が出来たり、2月も老人ホームで発表会の踊りを披露したりと地域交流も持つ事が出来た。また幼稚園開放も昨年と同様に実施することが出来た。
個人情報等の管理	A	個人情報の管理を徹底するように職員間で共通理解している。幼児指導要録の作成についても適切な時間、方法で作成出来ている。
園舎・園庭の安全管理	A	園庭遊具等の点検は、毎月1回定期実施を行っている。怪我などがあればその都度確認して改善に務めた。室内遊具は年齢に応じて設置対応していた。固定遊具には、必ず職員を配置して安全に考慮していた。
他校種との交流	B	小学校との繋がりを大切に子どもたちがスムーズに就学できるように情報交換や引き継ぎなど取組みを継続。また、インターンや高校生ボランティアなど受入れを行い、交流活動を行った。

## 《4.教育課程の編成と実施に関する評価》

【評価結果の表示方法】

A：十分理解できている    B：理解できている    C：一部努力が必要    D：努力が必要

項目	点検内容	評価				取組状況について
		A	B	C	D	
保育・教育目標について	(1) 保育・教育目標の具現化に向け、幼児の実態を踏まえた重点目標を設定している。	○				
	(2) 目標は、園や地域の特色を生かしている。		○			
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映している。		○			
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしている。	○				
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っている。		○			
指導について	(1) 指導計画は幼児の実態に即して作成している。		○			
	(2) 幼稚園教育要領に基づく指導援助が適切に行っている		○			
	(3) 環境の構成を意識した指導方法や課程を常に工夫している。	○				
	(4) 教材、教具を適切に活用している。	○				
	(5) 評価課程を基に、指導の改善に努めている。		○			
教育週時間数	(1) 教育週数を確保している。	○				
	(2) 登園・降園時刻と1日の流れは現行で良い。	○				
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切である。		○			
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。		○			
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的にしている。	○				
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっている。		○			
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れている		○			
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっている。		○		
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっている。		○		
		(3) 職員の配置は、適材・適所である。		○		
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切である。		○		

《5.教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する評価①》

項目	点検内容	評価				取組状況について		
		A	B	C	D			
経営・組織	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めている。		○				
		(2) 教職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく園の運営に関わっている。		○				
		(3) 打ち合わせ回数、時間、内容は適切である。		○				
	学年・学級経営	(1) 学年・学級目標は、保育・教育目標や重点目標に基づいて設定している。	○					
		(2) 学年・学級目標は、幼児の実態に即して設定している。	○					
		(3) 学年・学級目標に迫る短期・長期のねらいは、適切に設定している。	○					
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている。	○					
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育をしている。		○				
		(6) 評価、資料（諸記録）を集積している。	○					
	保健・安全指導	(1) 学年・学級経営に生かされるような具体的保健対策を講じている。		○				
		(2) 避難訓練、交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している。	○					
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っている。		○				
		(4) 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っている。		○				
	開かれた幼稚園づくり	学校間交流・連携	(1) 他校種との年間交流計画は、保育・教育目標や話題に添ったものになっている。		○			
			(2) 他校種の幼児児童生徒と触れ合う中で、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っている。		○			
(3) 指導者どうしが、打ち合わせや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っている。				○				
(4) 参観や指導に参加するなどして、他校種の教育を理解している。				○				
(5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしている。				○				
家庭・地域社会との連携		(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定している。		○				
		(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切である。		○				
		(3) 幼児の興味や関心に基づいて、地域社会・その他の施設と交流している。		○				
		(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れている。		○				

## 《5.教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する評価②》

項目	点検内容	評価				取組状況について		
		A	B	C	D			
開かれた幼稚園づくり	子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭、保育室等を開放している。		○			(4) について 保護者を対象とした機会を持つことが出来なかった為	
		(2) 地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っている。		○				
		(3) 地域の実態を捉え、計画的な預かり保育を行っている。		○				
		(4) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定している。			○			
		(5) 教職員による育児に係る「子育て相談」は充実している。		○				
		(6) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している。		○				
	情報発信	(1) 園だより・学級通信、ホームページ等で園の情報を発信している。	○					
		(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や他校種に対して周知している。		○				
	外部評価	(1) 園評議員の意見を園運営に反映している。		○				
		(2) 地域や保護者の意見を園運営に反映している。	○					
	研究・研修	園内	(1) 研究主題は、保育・教育目標の具現化につながるものである。		○			
			(2) 園内研修の計画・運営は適切である。		○			
(3) 研究の成果を日常の保育に生かし、幼児の育ちに反映させている。				○				
(4) 研究の実践による幼児理解が深まりを見せている。				○				
園外		(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加姿勢の充実を図っている。		○				
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元している。		○				
情報について	(1) 幼児や保護者に関する個人情報을適正に扱っている。	○						
	(2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っている。	○						
	(3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理をしている。	○						
施設・設備	(1) 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っている。	○						
	(2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管している。	○						
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っている。	○						
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。	○						
経出 理納	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理している。	○						

## 《6.今年度における全体的な所見・評価》

コロナ禍の制限がなくなり、行事や地域との交流を実施することが出来た。異年齢の交流も行事を通して行うことが出来たので、子どもたちの成長へ繋がった。夏は猛暑に見舞われエアコンが未設置のため暑さ対策が課題。またコロナ以外の小児感染症等の流行が増加し、子どもの体調管理には引きつづき注視に務めていた。チーム保育について、職員間の情報共有の時間が円滑に行われたのでスムーズに保育を行うことが出来た。

## 《7.総合的な評価結果》

評価	結果理由
B	職員の経験年数があがり、スキルアップすることで互いに情報を共有し合い保育に生かすことが出来た。しかし、認定こども園としてのそれぞれの家庭環境に合わせた行事の内容を検討することが課題となる。また、保護者との連携が少なかったことにも課題が残る。

## 《8.今後の取り組む課題》

課題	具体的な取り組み方法
子どもの年齢に合わせた保育の見直し	子どもの発達が年々幼くなってきており、個人スキルの差も大きいので1人1人に合わせた保育をしていきたい。先生たちが更なるスキルアップを行い、個々に合わせた保育活動が出来るようになって、子どものスキル向上や可能性を引き出す保育に取組んでいただきたい。
正職やパート職員の保育ルール・遊びの確認	子どもたちはクラスの約束事は守れているが、異年齢での活動や先生が変わると約束事が守れなくなる。どの職員も子どもたちには共通認識をもって同じ接し方に努めることが必要。子どもたちが自立して活動できるような補助やサポートを行っていく。

## 《9.学校関係者の評価》

特に指摘すべき事項はありません。

## 《10.財務状況の評価》

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。